

JASE

# 現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2023年

No. 147

2023年6月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE  
ASSOCIATION  
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info\_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 小澤洋美  
© JASE. 2023 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

包括的性教育—ユネスコとの対話・報告…………… 1	出会いは世界を広げていく③…………… 12
第8回UNESCOユースセミナー・報告…………… 6	今月のブックガイド…………… 13
わたしたちの性教育アクション③…………… 10	JASEインフォメーション…………… 14
多様な性のゆくえ⑦…………… 11	

## ●包括的性教育 — ユネスコとの対話・報告

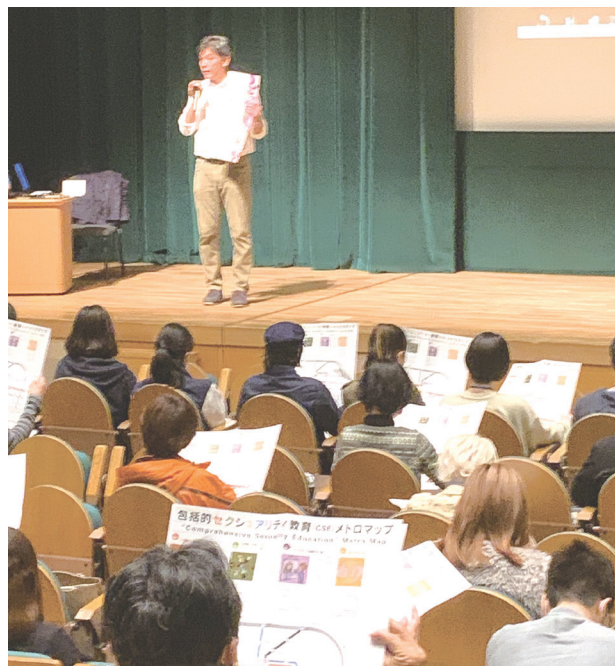
# セクシュアリティをハートで学ぶ

3月26日(日)13時30分より、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「包括的性教育—ユネスコとの対話 セクシュアリティをハートで学ぶ」と題した講演会が開催された(協賛・日本性教育協会)。このイベントは国際女性デー(3月8日)および国際幸福デー(3月20日)に関連づけて開かれた「UNESCOユースセミナー」(同会場で3月27日～28日)のプレイベントとして開催された。その概要を報告する。

### はじめに

プレイベント講演会は、UNESCOのパリ本部からの Joanna Herat 氏の約3分間のビデオメッセージから始められた。Joanna Herat 氏は、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』編纂の中心を担った一人である。

その後、このイベントの実行委員会代表の小貫大輔氏(東海大学国際学部教授)が「UNESCO ユースセミナー」の趣旨とプレイベントである講演会開催の目的を紹介した。ここで小貫氏は、受付で配布された「包括的セクシュアリティ教育(CSE)メトロマップ」の内容も解説された。マップの図および内容については、5ページを参照。また「UNESCO ユースセミナー」については、6ページ以降で詳しくレポートする。ここでは、プレイベントの概要をレポートする。



「包括的セクシュアリティ教育(CSE)メトロマップ」の内容について解説する小貫大輔氏

## 講演1

## 「性を学ぶ、人生をデザインする」

最初のスピーカーである染矢明日香氏（NPO 法人ピルコン理事長）の講演が始まる前に、司会の小貫氏はアイスブレイクとして、参加者同士の新たな繋がり の場を設定した。自分の周囲にいる初対面の人との自己紹介を通した繋がりをつくる活動であった。このアイスブレイクで、会場の雰囲気が変わったように感じられた。その後、染矢氏が登壇。

染矢氏は、ご自身の学生時代の体験から話を始められた。

講演の内容を紹介する前に、染矢氏のプロフィールをイベント案内から抜粋する。

自身の経験から日本における「思いがけない妊娠・中絶」の多さに問題意識を持ち、大学在学中に学生団体ピルコンを立ち上げ、性の健康の啓発活動を始める。2013年にNPO法人ピルコンを設立。自分事として性の健康を伝える若者ボランティアの育成をしながら、中学校、高校、大学等で300回以上、4万名以上の対象者に性教育講演を実施。思春期からの正しい性知識の向上と対等なパートナーシップの意識醸成に貢献している。

染矢氏は、ご自分の経験、友人の話などから「日本では避妊についての教育が行われていない」ことに気づき、避妊について学び、広げていこうという活動を大学4年のときに始めたのだという。その後、就職して充実した社会人生活を送っていたが、同時に大学時代に始めた活動も続け、「いま、必要とされているのは何なのか」自分の人生をデザインするなかで、性教育、性の健康に関することを広げていきたいとNPO法人を設立したのだという。

ピルコンは、「人生をデザインするために性を学ぼう」をコンセプトに、科学的に正確な性の知識と人権尊重に基づく情報発信により、若者と共に、これからの世代が自分らしく生き、豊かな人間関係を築ける社会の実現を目指している。

現在、産婦人科医や助産師、性教育研究者、LGBTQ支援団体などと協力・連携しながら、ユースボランティアと共に、中高生向け、保護者向けの性教育講演・性教育教材の製作など性の健康に関する啓発や、政策



染矢明日香氏の講演の様子とスライド

提言の活動を行っている。

その具体的な活動を動画などを使って紹介された。主な活動は以下の通り。

## ①学校対象の性教育講演

中・高校生、大学生や若者、保護者、児童養護施設職員の方や教員、子どもに関わる方を対象とする性の健康教育の講演。

• 性の健康・リレーションシップ教育プログラム LILY <Link Life of Youth>

中・高校生から大学生を対象に、自分の将来を守るために必要な性とライフプランニングの知識を大学生、若手社会人が講師となり身近な立場から、わかりやすく伝える出張授業の実施。同世代が対等な立場から一緒に考えることで効果的な情報提供・予防啓発を行う「ピア・エデュケーション」という手法を活用している。

## ②保護者・PTAを対象とした家庭における性教育についての講演

日本ではポルノ情報には簡単にアクセスできる一方で、子どもの発達の個人差に応じた性教育は、集団指導が中心である学校では困難な場合がある。特に思春期以前は、子どもにとってもっとも身近な存在である保護者の役割が大きいことを踏まえて、子どもたちが性トラブルから自分を守り、お互いを尊重する力を育むための保護者向けの性教育講演。

## ③高等学校向けスライド教材キット「性の健康・リレーションシップ教育スライド教材キット」など

性の健康についての啓発活動のため、性教育教材や動画、冊子・リーフレットなどの制作。

## ④ライフデザインオンライン

性教育や人権教育を授業や学校づくりに取り入れたい学校教員のための登録制の『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』をベースにした教材ポータルサイト。

## ⑤恋愛・性の悩みと疑問の解決サイト

「HAPPY LOVE GUIDE」

恋愛や性のこと、ココロ・カラダのことをきちんと学んだり、悩みを解決したいという人たちを対象にしたサイト。

## ⑥ SNS を活用した情報発信・相談支援

Twitter、LINE、Facebook、Instagram など複数の SNS を活用し、最新の情報や性に関する相談などを行っている。

## ⑦政策提言

- ・緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト共同代表として署名・要望書の提出などの活動を行っている。
- ・「はじめて規定撤廃」を含む、学習指導要領の見直しと包括的性教育の充実化を求め署名を集めて提出。

染矢氏は、現在 40 名ほどのフェロー（大学生・若手社会人ボランティアスタッフ）と一緒に活動を行っているという。「待っていても自分が理想とする未来



ユネスコの性教育専門家である Jenelle Babb 氏との質疑応答

が実現しないと感じたときに、自分自身がまず行動するという選択をとっている」と語り、「まずできることから始める」ことが大切ではないか、と締めくくられた。

## 講演2

### 今、ユネスコはなぜ性教育に本気なのか

染矢氏の講演終了後、質問タイムの予定だったが、タイ・バンコクとオンライン回線が繋がったため、ユネスコの性教育専門家である Jenelle Babb 氏の講演が、司会の小貫氏の通訳で始まった。

この講演は、ユネスコの「包括的セクシュアリティ教育」に関連する質問に答えるかたちで行われた。

内容を紹介する前に、Jenelle Babb 氏のプロフィールをイベント案内から抜粋する。

ユネスコのアジア太平洋地域教育局（タイ・バンコク）を拠点に活動する健康と well-being のための教育に関する地域アドバイザー。ユネスコ本部（パリ）の健康教育課やカリブ海地域をカバーするユネスコのクラスターオフィス、ジャマイカの教育省などで 15 年以上にわたって HIV 予防教育、包括的セクシュアリティ教育、学校保健、若者の健康と well-being の分野で活動している。

最初に、染矢氏からの「包括的セクシュアリティ教育に若者がどのようなところで関わられるのか」という質問に対し、「子どもたちは、質の高い教育を受ける権利を持っている。そのためには、若い人たちを仲間にして、パートナーにして一緒につくっていくことが

質の高い教育には必須です」と答え、そのうえで、一方向の教育、つまり、教師が教える、子どもたちは教えられるという関係でなく、子どもたちからの働きかけがある教育が、その基本になければならないと語られた。

続いて、染矢氏は「包括的性教育に否定的な保守的な人たちに、どう働きかけたらよいか」と質問された。

「その問題は、性教育の先進国と言われている国にも存在する問題である」と Jenelle Babb 氏は述べられた。包括的セクシュアリティ教育は、ユネスコだけが取り組んでいる教育ではなく、国連のいろいろな機関が関係して、地球規模のネットワークを作っている一大プロジェクトであるといい、大切なことはどうやったら仲間を増やすことができるか、どうやったら応援者（アライ）をつくっていけるか、お互いに信頼できる関係を構築できるか、などのことを考え行動することが大切で、そのなかで反対する人たちは、なぜ反対しているのか、どのような動機があって反対しているのか、そのことをよく理解して、それらの一つ一つを分析して対処法を積み上げることが大切だと、いくつかの具体的な例を挙げ、質問に答えられた。

次に司会の小貫氏は、「なぜユネスコは、包括的セクシュアリティ教育に熱心になったのか」と質問された。

Jenelle Babb 氏は、「とてもいい質問だ」と述べ、1990年代の HIV/AIDS の感染拡大、その予防法への反省があり、その過程で新しい教育の必要性の模索があったという。しかし、直線的に「包括的セクシュアリティ教育」に結びついたわけではなかったという。2009年にユネスコは『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』をまとめたが、この時は「包括的」という言葉を使うに至らなかった。2018年に改訂版をまとめたときに「包括的セクシュアリティ教育」という用語に落ち着いたのだった。

以前の性教育は、抑制する教育だった。つまり「脅しの教育」「禁止の教育」「予防中心の教育」「公衆衛生の教育」が中心だったため、目指した成果をあげたとは言えなかった。そこで、「若者の声を取り入れるべきだ」という専門家の声や「女性の力を高めることで、効果のある性教育ができる」といった調査結果を活かし、改訂版の『国際セクシュアリティ教育ガイド

ンス』はまとめられたのだという。包括的性教育には当然「予防の教育」も含まれるが、それだけでなく、性を肯定的に捉える姿勢、つまり、性とは人々が豊かに、楽しく、喜びをもって生きていくための「大切なこと」であるとする姿勢がベースにあると述べられた。

小貫氏の質問終了後、休憩時間を入れて、会場からの質問タイムになった。

多く寄せられた質問のなかに、いわゆる「はじめ規定」について Jenelle Babb 氏に意見を求めるものがあった。

中学校の学習指導要領では、「妊娠、出産については教えるが、妊娠に至る過程については教えない」とされているが、生徒から「どうして妊娠するのか」、つまりセックスについて聞かれることがままある、そのことに答えないと、生徒たちは SNS などを通して情報を得ようとする。その結果、誤った情報を得て、間違った性知識や歪んだ性知識を持ってしまう恐れがある。ユネスコでは、このような日本の教育の現状について、どう思われるか、ご意見をいただきたい、との質問であった。

Jenelle Babb 氏は、『包括的セクシュアリティ教育ガイドンス』はスパイラル型カリキュラムアプローチを使って、それ以前の学習の成果を積み上げながら幾度となく繰り返す学習方式をとっていると話された。子どもたちの成長に沿って、その時々知識を得ることが大切で、そのためには子どもたちが、現在どのような状況にあるのか、どのようなことが知りたいのかを知ることが大切である。そのためには教師だけでなく、保護者も含めて情報を共有して取り組むことが必要ではないかと提案された。

ユネスコの『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』は、学習目標の内容に沿って5歳～8歳、9歳～12歳、12歳～15歳、15歳～18歳以上などと発達段階を考慮して、性教育の内容を細分化して詳しく述べられているとも付け加えられた。

プレイベント講演会には、学校教員、助産師、その他の医療関係者、大学生、中高生など約120名、ユースセミナーのために前日から来ていた約30名の UNESCO ユースセミナー参加者を含めて150名を超える参加者があった。

(文責・編集部)

# 包括的セクシュアリティ教育(CSE)メトロマップ

## "Comprehensive Sexuality Education" Metro Map

### 1 RE 「人間関係」線



- 1.1 共感 (エンパシー)
- 1.2 支那と愛
- 1.3 リスペクト
- 1.4 ジェンダー平等
- 1.5 健全な人間関係
- 1.6 意思決定
- 1.7 自尊心
- 1.8 家族の役割
- 1.9 コミュニケーション
- 1.10 悪いタッチと良いタッチ
- 1.11 ヒューマンライツ (人権)
- 1.12 ストックマ (偏見・差別)
- 1.13 性別
- 1.14 尊重
- 1.15 みんな違ってみんないい

このテーマで目指す人間関係の学びは、一人一人が自分らしい生き方をするに始まり、支那や怒りや身近な人からの愛を受けて、互いの思いを受け入れ、誰か信頼も思いや尊重もです。私たちが信じたフラッグは、二人の人間が「あいさつ」でエンパシーを交しているイメージです。おことと愛をつづけるのは、ハワード (ホ二) と呼ばれるあいつの仕方です。

### 2 VA 「価値観、権利、文化とセクシュアリティ」線



- 2.1 価値観と倫理
- 2.2 社会的/文化的規範
- 2.3 リスペクト
- 2.4 ジェンダー平等
- 2.5 自分自身の価値観を知る
- 2.6 ヒューマンライツ (人権)
- 2.7 CEFM (性暴力抑制)
- 2.8 FGMC (女性器切離)
- 2.9 偏見/差別/性差別的

このテーマは、必ずしも文化を礼賛するばかりのものではありません。家族やコミュニティなしに社会の文化は、とくにその人の価値観と対立して緊張関係に入ることがあります。そんなとき、私たちはどうしたいのでしょうか。同じに立回りたいのは人間の尊厳です。性上と基礎的な権利を守るために、どんな法律や国際条約があるのかについて調べておきましょう。

### 3 GE 「ジェンダーを理解する」線



- 3.1 ジェンダーは社会的に構築される
- 3.2 ジェンダー役割と規範
- 3.3 ジェンダー平等
- 3.4 ジェンダー平等
- 3.5 ジェンダー表現
- 3.6 性自認
- 3.7 性的傾向
- 3.8 ヒューマンライツ (人権)
- 3.9 ジェンダーに基づく暴力
- 3.10 男性カビビ?
- 3.11 声もあげよう!

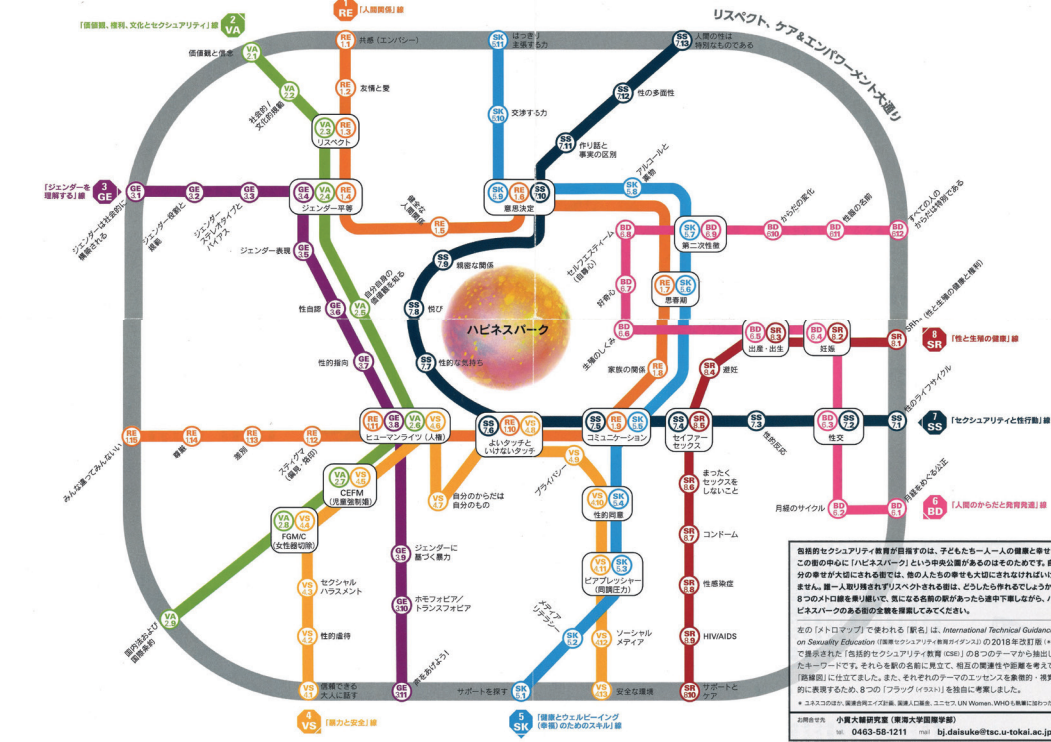
ジェンダーとは社会・文化がつくる男女の区別・差異のことです。「男はこうあるべき、女はこうあるべき」という決めつけが根拠なし、誰もが分けなく受け入れられる社会を作ろうというのがCSE-3のテーマです。LGBTQのことも、つまりジェンダー・アイデンティティ性癖や性的傾向の多様性を理解することも重要な学習です。

### 4 VS 「暴力と安全」線



- 4.1 信頼できる大人に話す
- 4.2 性的虐待
- 4.3 セクシャルハラスメント
- 4.4 FGMC (女性器切離)
- 4.5 CEFM (性暴力抑制)
- 4.6 ヒューマンライツ (人権)
- 4.7 自分からはいは自分のもの
- 4.8 いタッチと悪いタッチ
- 4.9 プライシー
- 4.10 性的同意
- 4.11 ビパフレッシャー (潤滑圧力)
- 4.12 ソーシャルメディア
- 4.13 安全な環境

性をめぐる暴力と、そこから身を守るということについて学びましょう。自分を守ることはもちろん、みんな守る力や信頼、ハラスメントを許さない学校や職場、コミュニティを作りましょう。けつて思っているのは「自分からは自分のもの」といって、同意を待たないで勝手にしてはならない。信頼できる大人に話しかけてほしい。信頼できる友人や家族、信頼できる大人はいますか?



### 5 SK 「健康とウェルビーイング (幸福) のためのスキル」線



- 5.1 サポートを探す
- 5.2 サクセスフルリテラシー
- 5.3 ビパフレッシャー (潤滑圧力)
- 5.4 性的同意
- 5.5 コミュニケーション
- 5.6 自尊心
- 5.7 第二次性徴
- 5.8 アルコールと薬物
- 5.9 意思決定
- 5.10 交渉スキル
- 5.11 はっきり主張する力

健康とウェルビーイングとは、単に「病気でないこと」や「長生きすること」ではありません。身体・精神・社会的に充実した「よい状態」を実現するために、自分のセクシュアリティ教育のものをしよう。そして、そのための知識とスキルを身につけよう。愛を高めよう、自分の人生を自分らしく、自分自身にまかせる勇気と表現力があることがフラッグです。

### 6 BD 「人間からだと発達」線



- 6.1 月経をめぐって
- 6.2 月経のサイクル
- 6.3 性交
- 6.4 妊娠
- 6.5 出産・出生
- 6.6 生殖の心身
- 6.7 好意心
- 6.8 セルフエスティーム (自尊心)
- 6.9 第二次性徴
- 6.10 からだの変化
- 6.11 性癖の老前
- 6.12 下での人のからだは特別である

自分のからだのことを知っていますか? 異性のからだに接するときは、相手のからだを尊重するを大切にします。第二次性徴や、その時期に起きるからだの変化。そこから生まれる心の揺らぎについて学ぶことは、すべての子どもと若者の権利です。

### 7 SS 「セクシュアリティと性行動」線



- 7.1 性のライフサイクル
- 7.2 性交
- 7.3 性的反応
- 7.4 セイフセックス
- 7.5 コミュニケーション
- 7.6 よいタッチと悪いタッチ
- 7.7 性的な気持ち
- 7.8 受け
- 7.9 同意な環境
- 7.10 意思決定
- 7.11 作り話と事実の区別
- 7.12 性的多様性
- 7.13 人間の性は特別なものである

人間のセックスは他とほつとも特別なものです。動物の交配のように生殖目的だけの行為ではありません。肉体の結合を超えた、人間独自の性の尊厳について考えよう。私たちのフラッグでは、健康な心身の成長を促せるセクシュアルな表現を求め、手と手を重ね合う姿勢が描かれました。

### 8 SR 「性と生殖の健康」線



- 8.1 SRHR (性と生殖の健康と権利)
- 8.2 妊娠
- 8.3 出産・出生
- 8.4 避妊
- 8.5 セイフセックス
- 8.6 まったくセックスをしないこと
- 8.7 コンドーム
- 8.8 HIV/AIDS
- 8.9 HIV/AIDS
- 8.10 サポートとケア

CSEの目標には、健康と出生の健康、学習と経済的自立、性差別との予防など、性と生殖の健康について学びましょう。フラッグの図柄となったリボンには、よく知られたツリリボン (子宮頸がんの予防) と、赤・黄・青の3色のリボン (HIV/AIDSの予防) をはじめ、性と生殖の健康の様々なテーマを象徴する色とりどりのリボンです。

## 「包括的セクシュアリティ教育(CSE)メトロマップ」

包括的セクシュアリティ教育が目指すのは、子どもたち一人一人の健康と幸せ! この街の中心に「ハピネスパーク」という中央公園がある。自分の幸せが大切にされる街では、他の人たちの幸せも大切にされなければならない。誰一人取り残されずリスペクトされる街は、どうしたら作れるのか。

この「メトロマップ」で使われている「駅名」は『International Technical Guidance on Sexuality Education』(『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』)の2018年改訂版で提示された「包括的セクシュアリティ教育(CSE)」の8つのテーマから抽出したキーワード。それらを駅の名前に見立て、相互の関連性や距離を考えて「路線図」に仕立てられている。また、それぞれのテーマのエッセンスを象徴的・視覚的に表現するため、8つの「フラッグ(イラスト)」が独自に考案されている。

## ◎第8回 UNESCO ユースセミナー・報告

# ジェンダーとセクシュアリティを理解する ワークとダンスと芸術表現の集い

2023年3月27日（月）28日（火）の2日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで「第8回UNESCOユースセミナー」が開催された（協賛・日本性教育協会）。本セミナーは、多様な文化的背景を持つ若者たちの集いで、2015年から毎年、主に関東圏の公立・私立の学校、民族学校、インターナショナルスクールの若者たちを集めて開催されてきた。毎回、若者たちにとって重要なテーマの中から1つを選んで理解を深め、議論し、芸術的に表現する取り組みをしてきている。今年（2023年）のテーマは「ジェンダーとセクシュアリティ」。UNESCOユースセミナーの活動目的と今回のセミナーの概要を紹介する。

## はじめに

「UNESCO ユースセミナー」は主に関東圏のユネスコスクールと様々な外国学校（インターナショナルスクールや民族学校など外国につながる学校）から高校生と教職員が参加し、国際理解教育、地球市民教育、環境教育というユネスコスクールの「3つの課題」の中から毎年ひとつのテーマを取り上げて議論する宿泊型のイベントである。東海大学の大学生や留学生たちもそれぞれの専門性を活かすかたちで参加している。

セミナーの実施主体は東海大学、かながわユネスコスクールネットワーク、CRI-チルドレンズ・リソース・インターナショナル（NGO）の3者でつくる実行委員会。第1回のセミナーは2015年に「未来について考えてみよう」をテーマに東海大学で開催された。

第2回（2016年）から第5回（2019年）まで、毎年同じく東海大学で開催されてきた。

テーマは、「多様化、多文化化する日本の学校」(第2回)、「多様性とインクルージョン」(第3回)、「海洋プラスチック問題と私たちの生活」(第4回)、「コスモポリタンな日本とは」(第5回) などであった。第6回は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）予防のため2021年3月に「日本のいろいろな学校」をテ



マにオンライン（Zoom）で、また第7回も新型コロナウイルス感染症予防を理由に2021年8月（第2回ユネスコスクール関東大会の分科会として）オンラインで「UNESCO ユースセミナーの6年間の取り組み：ユネスコスクールと外国学校の中高生の出会い」のテーマで開催され、2022年度終盤の3月、第8回目が3年ぶりに対面での開催となった。

第8回のテーマは「ジェンダーとセクシュアリティ」。ユネスコが推進する「包括的セクシュアリティ教育（CSE）」の8つのキーコンセプトに沿って、体験型のワークショップやダンスなど、様々な活動を通して学んだ。

第1日目は、体育館で全員が参加し、お互いを紹介し合うアイスブレイクから始まった。約1時間、様々な身体活動を通して参加者全員が交流し合った。

## ユネスコスクールとは

今回の1泊2日のUNESCOユースセミナーには、ユネスコスクール、シュタイナー学校、ブラジル学校、ドイツ学校など様々な学校の高校生たちと大学生130人と、東海大学の学生スタッフ23人の、計153人が参加した。その中心となっているユネスコスクールについて、少し解説を加える。

ユネスコスクールは、1953年、ASPnet (Associated Schools Project Network) という名称で発足。加盟校同士が活発に交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指している。

15か国33校からスタートしたASPnetは、その後、世界最大規模の学校ネットワークとなるまで成長し、近年では世界182か国で12,000校以上がASPnetに加盟して活動している。

日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を、「ユネスコスクール」と呼んでおり、2023年3月現在、国内では1,115校の就学前教育・保育施設、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学等がユネスコスクールとして活動している。

ユネスコスクールは、ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面（組織運営や授業、プロジェクト、経営方針など）に位置づけ、児童・生徒・学生の「心の中に平和のとりでを築く」ことを目指している。また、ユネスコが提唱する教育理念、『学びの4本柱』「知ることを学ぶ (Learning to know)」「為すことを学ぶ (Learning to do)」「人間として生きることを学ぶ (Learning to be)」「共に生きることを学ぶ (Learning to love together)」ことを重視し、活動している。（「ユネスコスクール」Webページより抜粋）

## ワークショップ「ジェンダーについて」

体育館を縦横無尽に使った人間関係をつくるアイスブレイクが終了すると、齊藤奈月さん（東海大学大学院2年）の司会進行で「ジェンダーについて」をテーマに身体で表現するワークショップが始まった。

「男の子、女の子と聞くと、どんなことをイメージ



しますか？」と参加者に、齊藤さんが自ら、走り方や仕草を交えて問いかける。

グループに分かれて、「男らしさ、女らしさとは？」の意見を出し合い、グループの代表者が身体で表現することに。胸を張ってドシドシと走って「男の子」を表現する参加者や内股で小走りに走り「女の子」を表現する参加者に、会場から笑いが起こる。

その後、「女の子らしく」から連想する動きが、大人と子どもでは、どのように違うかを実験した、ある海外の生理用品のCMをスクリーンに。そのCMでは、大人はおしとやかにゆっくりと走る姿が、一方、若い少女たちは力強く全力で走っている姿が。その映像は、性別への固定観念が年齢を重ねるとともに作り上げられていることを示唆していた。

ワークショップの最後に、齊藤さんは「人それぞれ、自分らしさは変化します。『男らしさ』、『女らしさ』ではなく、『それぞれが自分らしさ』を大切に、一人ひとりがいろいろな色で輝ける幸せな世界にしていきたい」と参加者に語りかけた。

このワークショップは、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』（以下、ガイダンス）の8つのキーコンセプトの3番目「ジェンダーの理解」の学習に該当する。このコンセプトでは、学習のトピックスとして、①ジェンダーとジェンダー規範の社会構築、②ジェンダー平等、ジェンダーステレオタイプ、ジェンダーバイアス、③ジェンダーに基づく暴力、の3点を挙げている。ガイダンスでは、それぞれのトピックの学習目標を、年齢別・発達段階別に解説している。

先に紹介した「包括的セクシュアリティ教育 (CSE)

メトロマップ」(5ページ)の裏面には、今回のユースセミナーでのワークショップのテーマの例が掲載されている。そこには、このワークショップについて下図の様に記されている。

### 3

#### 個「性」ってなんだろう？

自分のイメージする「男の子らしさ」や「女の子らしさ」を、からだを使って表現してみましょう。力強く、おしとやかに……。性別によって違ったイメージが思い浮かぶかもしれません。でも、周りを見回したとき、そんなイメージと同じ動作や仕草をする人ばかりでしょうか。私たちがいつの間にか身につけているジェンダーのイメージを見直して、男の子らしさや女の子らしさとは違う、「私らしさ」について考えてみましょう。「私らしさ」をからだで表現するとしたら、どんな動作や仕草で表すことができますか？



ワークショップは、昼食後、東海大学電子情報学部の卒業生でもあるイラン出身俳優のサヘル・ローズさんの講演後、引き続いてユネスコが提案する性教育のキーコンセプトを理解するための体験型ワークショップが、27日午後と翌28日に行われた。

#### サヘル・ローズさんとの対話

他のワークショップの紹介の前に、「サヘル・ローズさんとの対話」の内容を紹介する。サヘル・ローズさんはユースセミナーの講師の一人として、自らの経験を踏まえて文化を超えた相互理解の大切さを訴えた。

サヘルさんは、ご自分の生い立ちから講演を始められた。イラン西部の小さな町に大家族の末っ子として



生まれた。1989年2月下旬、イラン・イラク戦争さなかイラク軍の空爆により4歳の時、家族と生き別れる。その町へ救護隊ボランティア要員としてテヘラン大学からかけつけていたフローラ・ジャスミンさんに救助され、7歳までテヘランの孤児院で暮らす。出生名が不明のためフローラさんが考えた名前を使用することになる。サヘル・ローズとは「砂浜に咲く薔薇」という意味。7歳の時にフローラ・ジャスミンさんの養女となった。

フローラさんは、身元の明らかでないサヘルさんを養子として迎えることに反対され、家族からの経済的な援助などを断ち切られることとなった。それらの事情を相談した日本に留学していたフローラさんの婚約者(イラン人男性)に渡日を勧められた。1993年8月に渡日し、埼玉県志木市で生活することとなる。フローラさんの婚約者が小学校の入学手続きを済ませてくれたが、彼の「箕」という名の虐待に耐え兼ねて家を飛び出し、母子で2週間ほど真冬の公園でホームレス同然の生活も経験する。その際、小学校の給食調理員をしていた女性がサヘルさん母子に手を差し伸べ日本に住めるビザ申請の手助けをしてくれた。また同時期に通っていた小学校の校長から日本語を学んだ。

その後、都内に越して高校1年生の時に学費を稼ぐため芸能事務所に登録し、外国人エキストラのアルバイトを始める。最初は、死体や台詞のない役ばかりだったが、高校3年生の時にJ-WAVEのオーディションを受けたのがきっかけで、「GOOD MORNING TOKYO」で初のラジオリポーターを経験し芸能界入り。同時に大学に通い2008年3月、東海大学電子情報学部を卒業。

現在、各方面でご自分の体験を語り続けている。国



際情報番組のキャスターとしてニュース番組にも出演している。また俳優としても活動の幅を広げ、舞台『恭しき娼婦』では主演を務め、映画『冷たい床』はミラノ国際映画祭で最優秀主演女優賞を受賞。

芸能活動以外にも2012年から児童養護施設の支援のほか、国際人権NGO「すべての子どもに家庭を」で親善大使を務めており、世界中を旅しながら難民キャンプや孤児、ストリートチルドレンなど子どもたちの支援活動も行っているという。

## テーマごとのワークショップ

ワークショップのすべてを見ることはできなかったため、配付された資料「CSEのテーマごとのワークショップ例」を基に、「ガイダンス」に示されたキーコンセプトごとに当てはめて、その内容を以下に紹介する。

### ●キーコンセプト1は、「人間関係」

様々な文化背景や言語を持つ参加者メンバー同士が、それぞれの国の挨拶（お辞儀、握手、キスなど）の仕方を教えあい、それぞれの文化がたいせつにする「人間関係のあり方」をからだで体験し、比較する。

### ●キーコンセプト2は、「価値観、人権、文化、セクシュアリティ」

ここでのテーマは、「あなたにとって結婚とは？」。

「文化や社会が、自分自身の人生の目的や価値観と衝突したときはどうしたらいいでしょうか」と結婚を例に挙げている。（キーコンセプト3は、先述7ページ）

### ●キーコンセプト4は、「暴力と安全確保」

ここでのテーマは、「グッドタッチとバッドタッチ」。ビオダンスという言葉を紹介せず音楽と動きでコミュニケーションをとるワーク。

### ●キーコンセプト5は、「健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル」

「ただ見ているだけでなく：そばにいる人ができること」がテーマで、人形を使ったロールプレイ。

### ●キーコンセプト6は、「人間のからだと発達」。

「はじめて手にとる生理用品」をテーマに、生理について、さまざまな生理用品に触れながらのワーク。

### ●キーコンセプト7は、「セクシュアリティと性的行動」

ここでのテーマは、「教えて、赤ちゃんはどうやってできるの？」。中学校学習指導要領の「はどめ規定」と関係する内容。

### ●キーコンセプト8は「性と生殖に関する健康」

テーマは「人類のためのコンドーム講座」。実際にコンドームに触れながら、コンドームはなぜ必要なのか、どのような場面でどう使うのかのワーク。

（文責・編集部）

## JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

### 資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】 必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】 しばらくの間、月～金曜日 11:00～17:00

【休室日】 土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】 コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

### 資料室 利用方法

### 収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

[https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=NS1JEYq24WsoCGy\\_N7GNQ\\_WQaeg](https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=NS1JEYq24WsoCGy_N7GNQ_WQaeg)

↓資料検索



## わたしたちの 性教育 アクション

NPO 法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port（以下、L-Port）は2012年3月11日に設立された団体です。1年前に東日本大震災が起きましたが、この震災により東北地方では多くのLGBTQ当事者も被災をし、そこで初めてセクシュアルマイノリティであるがゆえの被災時ならびに緊急時の困難が露呈しました。東北地方の団体からLGBTQであり被災者でもある方々の支援を求められ、北海道札幌市にて当法人は設立されました。

当初はLGBTQ向けの電話相談事業が活動の主軸でしたが、時代の流れと共に当法人の事業内容も変化していきました。現在は「相談」「居場所」「啓発」の三本柱をメインとした事業を展開しています。

### LINE 相談 「にじいろ talk-talk」

活動当初主軸としていた電話相談からLINE相談「にじいろ talk-talk」に切り替えて運営を続けています。電話からLINEへ相談ツールを変更した経緯として、若年層LGBTQ当事者向けの相談場所が非常に限られているということがあります。

2015年頃を境にLGBTQ向けの電話相談は全国の支援団体や行政が一気に取り組みを加速させましたが、私たちがLINE相談を始めた2018年時点ではLINE相談を行う支援団体や行政がひとつもない状況でした。若年層は家族と同居していることや電話への馴染みが低いこともあり、電話相談をあまり活用しないことが分かっていたことから、思春期や二次性徴を迎える10代から20代の若年層が普段使いするLINEというツールを用いて相談を始めたのです。

現在、月2回18:50～21:50に相談を開設しており、10名ほどの相談員が対応に当たっています。

### 少人数型の交流スペース「にじいろ相談室」

LINE相談から得たニーズを具現化する先として、2022年度から札幌市内の公共施設にて平日夕方から

#3

## 「相談」「居場所」「啓発」の 三本柱をメインとした事業を展開

NPO 法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port

夜にかけて少人数型の交流スペースである「にじいろ談話室」を月に1度開設しています。飲み物を飲みながらLGBTQ当事者やアライが集まって性の多様性が前提とされたセーフスペースで交流したり、全国から収集したコミュニティのパンフレットなども自由に持ち帰ることができます。この居場所も定期開催をはじめから延べ150人近い方にご利用いただいています。

### 「性の多様性を伝える」ための出前授業

北海道内の中学・高校・大学、行政をメインに年間50件ほど性の多様性を伝えるための出前授業を行っています。多くのLGBTQ当事者の中には幼少期からの偏見・差別・無理解・嫌悪・誤った情報に晒され、若い頃から自殺念慮を強く抱えている方がいます。親や先生に相談できず人知れず悩みを抱えて自己嫌悪に陥る当事者が後をたちません。

校内の設備や環境、意識を“性の多様性ありき”のものに変えていくことが、孤独に悩む当事者を減らす手段の一つであると考えています。

その他の事業として、就労継続支援B型事業所や地元の木工作家と協働しレインボーグッズの制作と販売を行い、広く市民向けに多様な性に関する啓発活動を行うほか、年に数回程度女性が好きな女性向けの野外交流事業、LINE相談事業を始めたいと考える支援団体向けのコンサルティングなどを行っています。

今後は「にじいろ談話室」の設計と運営で得たノウハウを生かしながら北海道内の地方都市でも出張型の居場所を開設していきたいと考えています。

（文責・中谷衣里）

NPO 法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port  
（略称 L-Port）代表理事 中谷衣里（スタッフ 19 名）

L-Port のホームページ <https://l-port.net/>  
相談事業「にじいろ talk-talk」の twitter  
<https://twitter.com/LLinq2018>  
居場所事業「にじいろ談話室」の twitter  
[https://twitter.com/niji\\_lounge](https://twitter.com/niji_lounge)

## 私たちは、ひるまない

春はいつもこんなものなのか。今年の4月後半、東京は寒暖の差が例年になく大きかったように思う。都心の最高気温は5月末から6月の暑さとなり、熱中症で病院に運ばれる人もいた。一転して22日(土)18.4度、週が明けて24日(月)は16.0度と3月並みに逆戻りする。

東京レインボープライド(TRP)2023のパレードが行われた4月23日(日)も、また寒い一日になるのかなと覚悟して午前中に自宅を出た。厚い雲が沿岸部の空を覆い、鎌倉駅へ向かう道も北風が強い。

だが、渋谷に着いて湘南新宿ラインを下り、パレード出発地点の代々木公園に向かう頃にはすでに空は晴れわたっていた。強い日差しを受け、速足で歩くと汗ばむほどだ。最高気温は20.5度と平年並み。ピンポイントで絶好のパレード日和となった。「今年は歩くぞ」と満を持して馳せ参じた甲斐があったというべきか。

会場に向かう途中、パレードコースに沿った渋谷PARCO店頭には、6色のレインボーフラッグが懸垂幕のように並ぶ。パレードは企業にとっても重要なイベントなのだろう。

ちょっとお邪魔をしてエスカレーターで2階に上がり、トイレの位置を確かめておく。これでひと安心。冷え込むようだと思えば急に尿意を催すこともある。高齢期に入り、町を歩く時には、すぐに駆け込めるトイレを確認しておくことが必須の条件となった。

コロナ流行の影響でパレードは2020、21年とオンライン開催が続き、昨年は実際に歩くパレードが復活したが、参加者2000人、梯団数8。規模は小さい。

今年はTRP2023の主催者発表によると、パレード参加者一万人、梯団数39。各梯団はフロート(トラックの荷台を飾り付けた山車)の先導で午後1時から順次、代々木公園を出発し、渋谷、原宿を回って再び代々木公園のイベント会場に戻った。『#UPDATE HIV』をテーマに掲げたフロートは39梯団の21番目に登場。先ほど「満を持して」と書き、トイレの下見までして参加したのは、この梯団に加わって歩くためだ。

HIV/エイズの流行は性的少数者、なかでもゲイコミュニティの人たちに大きな影響を与えてきた。病いと衰弱、そして死は、元気な時には避けて通りたい話題だが、1980年代以降、数多くの若いゲイ男性にとって避けられない現実であり続けてきた。当コラム第56回『真昼の決闘を挑む』では北丸雄二著『愛と差別と友情とLGBTQ+』から次のような一節を紹介した。

『セックスを諦めることはできません。かといってエイズの“隠喩”を暴走させておくわけにもいかない。夜戦をしかけてくるHIVに対して、欧米社会は真昼の決闘を挑むこととなります』

ただし、それは欧米社会に限った話ではないと私は思う。北丸さんも実はそう考え、日本の性的少数者へのエールとしてこの本を書いたのではないか。

エイズをテーマに掲げたフロートは毎年、パレードに参加しているわけではない。2014年と2016年には『AIDS is not over (エイズは終わっていない)』、2019年には『Living Together (HIVをもっている人も、そうじゃない人もすでに一緒に生きている)』をメッセージにしたフロートが登場している。

2、3年おきだったのは、準備に資金と時間がかかるからだ。山ほどある課題に少ない人数と予算で対応している現状では、毎年のパレード参加は不可能に近い。それでもコロナによる中断を経て、今年は実現させたいとakta、ぶれいす東京、日本HIV陽性者ネットワークJaNP+の3つのNPO法人が準備を進め、少し遅れてエイズ予防財団も加わった。

フロートに続き、4列縦隊の先頭で「We are positive」と大書されたバナーを交代しながら掲げて歩いたのはHIVポジティブ(陽性)の6人だった。HIV陽性者が揃ってパレードの先頭に立つのは初めてだという。

ただし、HIV感染の有無に関わりなく、バナーのpositiveは、後続の人たちの「私たちは、ひるまない」という思いにもつながっていた。精一杯、楽しく、そして明るく、「真昼の決闘」は続いている。

# 出会いは世界を広げていく

## 交流会を通して

第3回

土肥いつき DOHI ITSUKI

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

### はじめての「場」づくり

5月号では、わたしの「人が集まる場」との出会いを書きました。今号には、わたしがはじめて「場」をつくる側になった経験を書こうと思います。

わたしがはじめて「場」をつくる側になったのは、おそらく大学生の時だったと思います。わたしが入学したのはキリスト教系の大学でした。理系が好きなのは、大学では工学部電子工学科に進学しました。ただ、入った瞬間に「間違えた」と思いました。理系が好きであることと、それを学問として学ぶことの間にある大きな違いを実感したのです。わたしは高校時代に合唱部に所属しており、大学でも続けたかったのですが、あまりにも勉強が忙しいので合唱部は断念し、代わりに電気研究会に入り、プログラムをつくりたりして楽しんでいました。また、大学の講義もなんとかついていけるように勉強もしていました。

しかし、それは1年生の間だけでした。2年生の夏休み、課題をするために祖父の家に居候させていただきました。当初は夏休みだけの予定でしたが、そのままずっと祖父の家に居続けました。それをきっかけに、わたしはどんどん大学の講義から遠ざかっていき、工学部の友だちとも疎遠になりました。また、電気研究会もやめてしまいました。こうして、わたしは大学の中に居場所をなくしました。

そんなわたしでしたが、再び大学の中に居場所を見つけることになりました。その最初のきっかけは、キリスト教の教会の青年会でした。たまたま一般教養の授業で出会って親しくなった他学部の友だちに、大学の系列のD教会の青年会に誘われました。わたしは他の教会に籍がありましたが、D教会の青年会に参加しはじめました。D教会の青年会は、「教会に批判的にかかわる」ことを標榜しており、かなり政治があったメンバーが多く、活動方針をめぐるメンバー間の衝突もありました。最終的には青年会は空中分解しました。しかし、そのような青年会に身をおくことを通して、他の教会の青年会の人々ともつながり、わたしの交友範囲はキリスト教の中に広がっていきました。

さらにわたしは大学内にもひとつの居場所を見つけました。それは、かつて断念した合唱を行う聖歌隊でした。わたしが入部した当時の聖歌隊は部員がほぼゼロの状態、唯一いた先輩は練習の日にひとりでオルガンを弾きながら誰かが来るのを待つという状態でした。そこでわたしは先輩から指揮者のポジションをもらい、ひたすら人集めをしました。人が集まったら、次は発表の場所の確保です。大学が行っている礼拝で賛美歌を歌えるように、宗教部につけあいました。このようにして、復活聖歌隊が結成されました。

そしてもうひとつ、これらをつなぐ大切な居場所を見つけました。それは、宗教部の建物の中にある「談話室」という部屋でした。当時誰も使っていなかった談話室にわたしは居座りました。そこにD教会の青年会や他の教会の青年会、そして聖歌隊のメンバーが入れ替わり立ち替わりやってきました。異なるいくつかのグループが「談話室」という「場」でつながり、人間関係や話題が化学反応を起こしていました。そしてその化学反応は、さらに他の人を呼び込み、談話室は多様な人が集まる「場」になりました。談話室のメンバーたちは、宗教部主催のキャンプにみんなで参加したり、聖歌隊の名前を使って学園祭に喫茶店を出したり、とにかく「おもしろいこと」をやりました。

あちこちに出かけていって、それぞれの場所にいる人をつなぐ「場」をつくる、今のわたしのやり方の原点は、この談話室にあったような気がします。わたしはそんな談話室の中では「中心」にはおらず、「周縁」にいたような気がします。また、そこで担っていた役割は、おそらく「触媒」だったと思います。

ただ、こんなことをしていたので、わたしは4年で大学を卒業できませんでした。大学5年になった時、同学年の人たちはみんな卒業してしまい、談話室から人は消えました。わたしも教員採用試験や卒業のために勉強しなければならなくなり、談話室に行くこともなくなりました。そして翌年、わたしも大学を卒業し、現在の高校に赴任することになりました。

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### 価値観のアップデートを

本書は1冊を学校に見立て、第1講から第6講まで性教育の学び直しに不可欠の項目を各専門家が解説してくれる作りとなっている。本ジャーナルの読者であれば、校長の村瀬幸浩氏をはじめ執筆陣を見渡しただけで錚々たる面々が集まった贅沢な内容であることが予想できるだろう。

第1講は、産婦人科医でYouTubeやSNSでの情報発信も熱心に行っている高橋怜奈氏による「更年期」。私もまさにどんぴしゃの世代であり、そろそろ一度産婦人科で相談してみようかな…と考えさせられた。そして、社会であまり語られることのない男性の更年期についてもしっかり書かれているので、異性のパートナーがいる人はお互いに勉強になるだろう。

第2講は、産婦人科医の宋美玄氏による「セックス」。宋氏といえば『女医が教える 本当に気持ちのいいセックス』（ブックマン社）のヒットが思い浮かぶが、同書の出版はもう13年前のことだそう。しかし、10年以上の時を経て、日本のセックス事情が変わったかという「大人こそが性についての知識をアップデートできないで見えます」。身体も変化してきて、性的欲求も目減りしてくる50歳以降のセックスを焼き肉に例えている箇所がとても腹落ちしてわかりやすかった。

「性教育」というと、セックスや病気などフィジカルな事柄が中心になりがちであるように思うが、本書は身体的な内容が主なのは第2講までで、第3講以降はほぼ人間関係の話である。「はじめに」で村瀬氏は、校訓は「威張るのをやめて、仲よくする」であると書いているが、この「小学校の標語みたい」な教えが、読み進むほどに本当に大事であると感じられる。

第3講は、弁護士の太田啓子氏による「パートナー

### 50歳からの性教育

村瀬幸浩  
高橋怜奈 宋美玄 太田啓子  
松岡宗嗣 斉藤章佳 田嶋陽子



### 50歳からの性教育

村瀬幸浩、高橋怜奈、宋美玄、太田啓子、松岡宗嗣、斉藤章佳、田嶋陽子 著

河出新書  
定価 935円（税込）

シップ」。妻側からの依頼での離婚事案を多く手がける氏は、円満な関係には相手への尊重と傾聴が大切であることを様々な事例を挙げて解説している。

第4講は、性的マイノリティに関する執筆活動や研修等を行っている松岡宗嗣氏による「性的指向と性自認」。LGBTQ+やSOGI等の言葉の解説もあるが、ここで語られているのは、性は多様であること、性的マイノリティも一人ひとり違うこと、そして性的マイノリティの実態を知ってほしい、ということだ。

第5講は、性加害をした人に対する再加害防止の教育プログラムに携わる、精神保健福祉士・社会福祉士の斉藤章佳氏による「性暴力」。性犯罪の99%は男性が加害者で、性暴力は「男性側の問題」である。「加害する理由に、『男性』という属性からくるものがあるのではないか。（略）社会のなかに男性という属性の人たちを加害に向かわせる何かがあるのなら、そこにメスを入れることで性暴力の加害者を減らせるのではないか」という視点は、性加害をしない男性にとっても重要なものであると思う。

第3～5講で共通して語られているのは、相手を尊重し、支配しない、ということだ。これはまさに校訓の「威張るのをやめ」ることだろう。

さて最後の第6講は、村瀬氏と田嶋陽子氏の「ジェンダー」がテーマの対談。ジェンダーについてに留まらず、80代お二人の来し方なども語られていて楽しく読める。締めくくりに田嶋氏が「いまは人生100年でしょ。まだまだ私たちも20年ありますね。好きなことしなきゃ！」と軽やかに発言されているのがいい。

田嶋氏が言うように、男女ともに平均寿命が80歳を超え、今後更に延びることが推計されている現在、50歳はまだ折り返し地点を過ぎたばかりだ。価値観をアップデートし、威張るのをやめて、周りの人々と仲よく過ごすために、ぜひ本書に入学を。

（日本性科学連合事務局長 今福貴子）

全国性感育研究団体連絡協議会

▶▶ 8月4日(金)9:30~17:00  
8月5日(土)9:30~16:30 ◀◀

## 第51回全国性感育研究大会

第21回九州ブロック性感育研究大会・第25回熊本県性感育研究大会

**テーマ** 様々な性の課題を賢明に乗り越え、豊かに生きていくための性感育  
～性に関する様々な発達課題及び時代の課題を性感育の実践でどう扱うか～

### 主なプログラム

- 1日目**：9:30～9:50 **開会行事** 挨拶 開催地活動報告 祝辞  
10:00～10:50 **基調講演** 「学習指導要領に基づく性に関する指導」  
講師・横嶋 剛 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官  
11:00～12:30 **理事長講演** 「今、学校に求められる性感育とは」  
講師・野津有司 全国性感育研究団体連絡協議会理事長・筑波大学名誉教授  
13:30～15:00 **講演Ⅰ** 「学校における性感育で月経をどう教えるか～月経は健康のバロメーターなの  
のでしょうか～」  
講師・北村邦夫 日本家族計画協会会長  
15:10～16:40 **講演Ⅱ** 「LGBT支援に関して医療の現場から学校へ伝えたいこと～文部科学省通知・  
教師用資料を医療の立場から読む～」  
講師・中塚幹也 岡山大学学術研究院保健学域教授  
17:30～19:30 **懇親会**

- 2日目**：9:30～12:00 **分科会Ⅰ(発達段階別)**  
「幼児期における性感育の実践」「小学校における性感育の実践」  
「中学校における性感育の実践」「高等学校における性感育の実践」  
「特別支援教育における性感育の実践」  
13:20～16:20 **分科会Ⅱ(課題別)**  
「保護者・関係団体と学校との連携と学校における性感育の推進」小貫大輔 東海大学教授  
「性非行少年の心理療法」針間克己 はりまメンタルクリニック院長  
ワークショップ「ICT教育の目指すもの～性感育への手法の活用のために～」前田康裕 熊本大学特任教授  
「文科省通知に基づき子どもたちの婦人科疾患を予防・早期発見するには～月経と子宮頸がんを中  
心に医療機関や保護者との連携を考える～」宮原陽 みやはらレディースクリニック院長  
「性的マイノリティ当事者の児童生徒の理解と学校が求められる支援」日高庸晴 宝塚大学教授

**会場** 市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)及び熊本市国際交流会館 ※懇親会・城見櫓5階

**定員・申込み期間** 定員/500名 申込み期間/2023年6月1日(木)～7月21日(金)

### 参加費・申込み・問合せ先等

参加費/両日参加：一般6000円、学生2000円、1日参加：一般3000円、学生2000円 ※懇親会・会費5000円

主催/全国性感育研究団体連絡協議会、九州ブロック性感育研究協議会・熊本県性感育研究会

協賛/日本性教育協会、(一財)熊本県PTA教育振興財団

後援/文部科学省、厚生労働省、こども家庭庁、全国連合小学校長会、全日本中学校長会ほか(一部申請中)

問合せ先/大会事務局 zensei51kumamoto@gmail.com

申込み方法/右記URLもしくはQRコードより。https://amarys-jtb.jp/zenseiren51/



▶▶ 7月8日(土) 日本「性とこころ」関連問題学会 第12回学術研究大会 ◀◀

## 子どもの生とセクシュアリティ 大人は現代の子どもたちの性とう向き合うのか

### 【主なプログラム】

大会長講演：「小児性愛という病—それは、愛ではない」 齊藤章佳（大船榎本クリニック）

現代のトピックス：「子どもたちとともに学ぶ『射精道』」 今井 伸（聖隷浜松病院）

教育講演：「〈性〉なる家族—なぜ性虐待は隠蔽されるのか」 信田さよ子（原宿カウンセリングセンター）

メインシンポジウム：「子どもの生とセクシュアリティ～それぞれの現場から見える世界」

山口修平（一宮学園） 櫻井裕子（さくらい助産院） 今西洋介（大阪大学大学院） 高橋幸子（埼玉医科大学）

基調講演：「子どもの生とトラウマインフォームドケア」 小澤いぶき（認定NPO法人PIECES・子ども家庭庁政策アドバイザー）

公開講座（参加費無料）：「知識とともに態度のモデルを～子どもに話す生と性」 小島慶子（タレント・エッセイスト）

### 【会場】

ホテルメトロポリタン（東京都豊島区西池袋1丁目6-1）

### 【参加費等】

会員・事前2,000円、当日3,000円 一般・事前3,000円、当日4,000円 学生・事前1,000円、当日2,000円

事前申込みは、ホームページから <http://www.jssm.or.jp>



### 【問合せ先】

日本「性とこころ」関連問題学会第12回学術研究大会事務局 医療法人社団 明善会 榎本クリニック 担当：大村  
tel：03-3982-5345 / fax：03-3982-6089 E-mail: sei-kokoro1@enomoto-clinic.jp

▶▶ DV・性暴力被害にかかわる 支援者のための研修講座 2023 ◀◀

### 【コース】

Aコース：現在支援活動をしている方、これから活動しようとしている方、すべての方が対象  
定員 80名

Rコース：NPO法人レジリエンスプログラム + 認定NPO法人CFJ RIFCR™プログラム  
定員 40名（Aコースを修了された方が対象）

SANEコース：性暴力対応看護師養成講座 看護職（看護師、助産師、保健師）の女性が対象  
定員 30名（Aコースを修了していること、全期すべてに参加することが条件）

### 【日程】

プログラムは3期に分かれている

1期 2023年7月8日(土) 9日(日)

2期 2023年11月11日(土) 12日(日)

3期 2024年1月20日(土) 21日(日)

### ☆コース別に会場開催とオンライン開催に分けて開催

Aコース	1期: オンライン	2期: 会場	3期: オンライン
Rコース	1期: 会場	2期: オンライン	3期: 会場
SANEコース	1期: 会場	2期: オンライン	3期: 会場

### 【参加費・問合せ先等】

主催：特定非営利活動法人 女性の安全と健康のための支援教育センター

参加費：各コースとも全期参加・会員 50,000円、非会員 60,000円

会場：東京有明医療大学（東京都江東区有明2-9-1）

問合せ・申込み先：[https://shienkyo.com/?page\\_id=16](https://shienkyo.com/?page_id=16)



すぐ授業に使える

# 性教育実践資料集

## 中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）



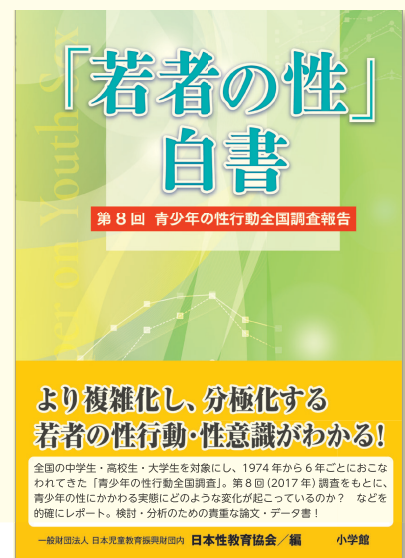
定価 2,200 円 (税込) B5 判・224 ページ

# 「若者の性」白書

## 第8回 青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み  
～自由記述欄への回答からみえるもの～



定価 2,420 円 (税込) A5 判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！